

天童市商店街及び市街地活性化に関するアンケート  
集計結果について

平成24年4月  
経済部商工観光課

1 商店街及び市街地活性化にかかるアンケートについて

- ・実施時期：平成24年1月
- ・目的：①個々の商店及び商店街としての現状と課題、要望を答えてもらう  
②市内の商業環境の課題などをさぐる。
- ・対象：商店数690店。  
回答を得たのは254。回収率36.8%となった。

【現在の商業者の状況】

○地区別 天童：446、成生：32、蔵増：21、寺津：17、津山：28、田麦野・山口：65、高掬・長岡：125、干布：29、荒谷：27

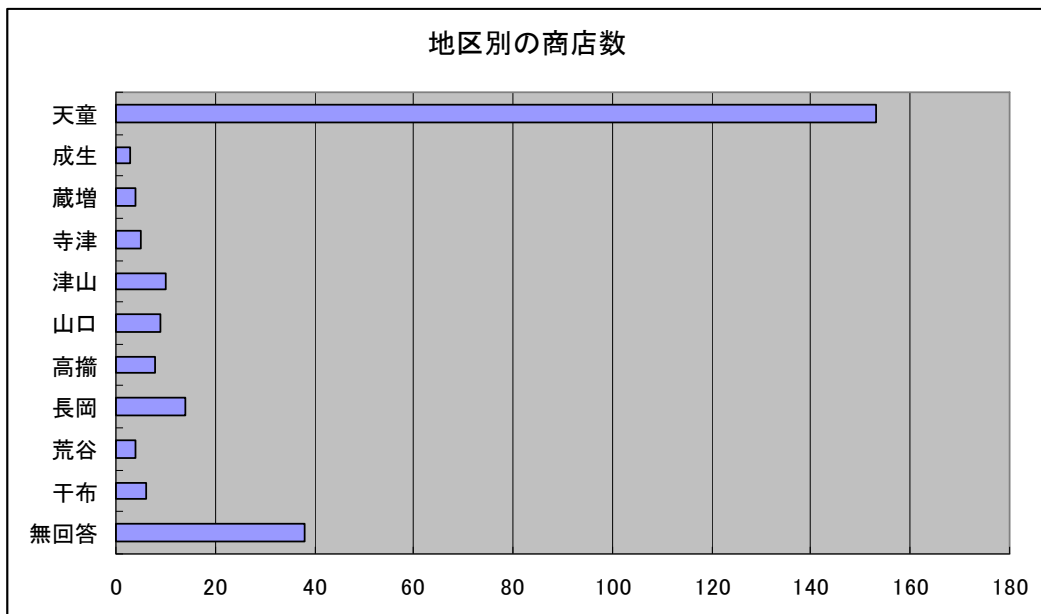
○従業員の規模 1～2人：322、3～4人：171、5～9人：169、10～19人：84、20～29人：17、30～49人：12、50～59人：13、100人以上：2（平成19年商業統計より）

2 アンケート結果について（平成24年2月20日）

アンケートの回収率は、全体で36.8%となっている。

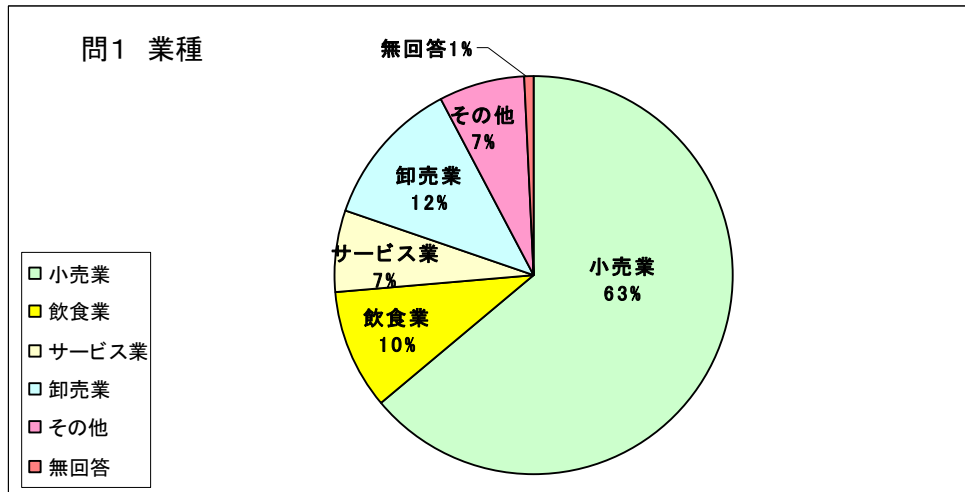
内訳は下表のとおり。天童地区の回収率が一番高く、36.7%である。

地区	天童	成生	蔵増	寺津	津山	田麦野	山口	高掬	長岡	干布	荒谷	無回答	計
回収	153	3	4	5	10	0	9	8	14	6	4	38	254
回収率	36.7%	21.4%	22.2%	35.7%	21.3%	0.0%	30.0%	15.1%	23.7%	26.1%	30.8%		36.8%



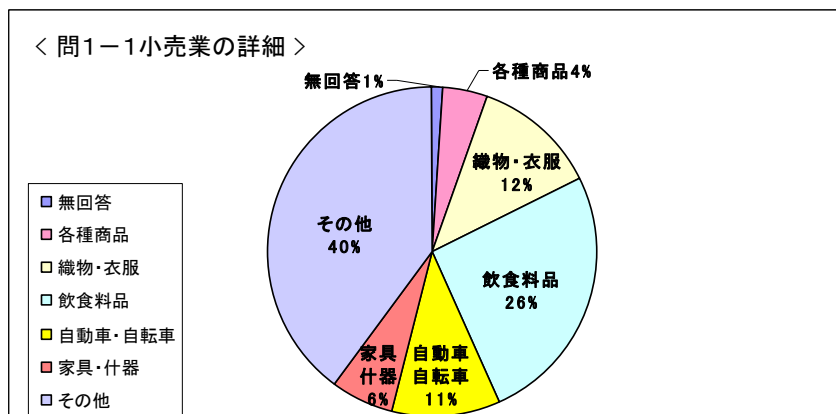
## 問1 業種

業種別に見ると、小売業が63%、卸売業が12%、飲食業が10%、サービス業が7%であった。



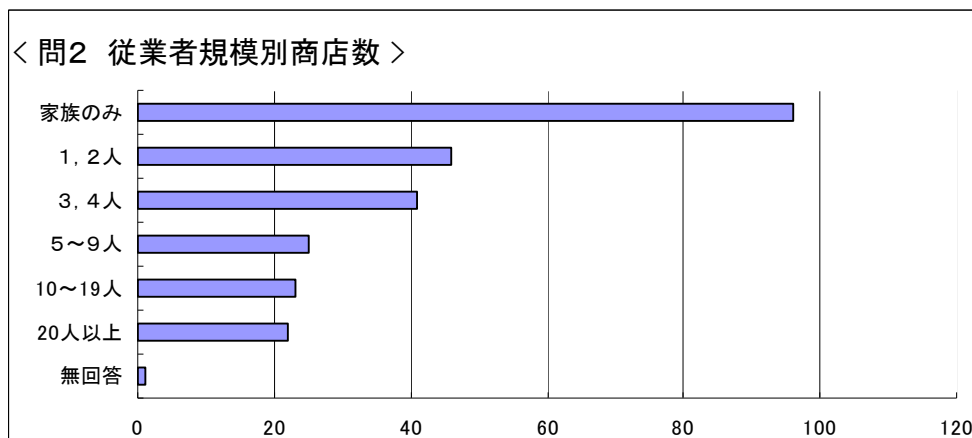
### 問1-1 小売業の詳細

小売業の詳細(内訳)を見ると、飲食料品26%、織物・衣服22%、自動車・自転車19%、家具・什器11%、各種商品8%、その他40%であった。



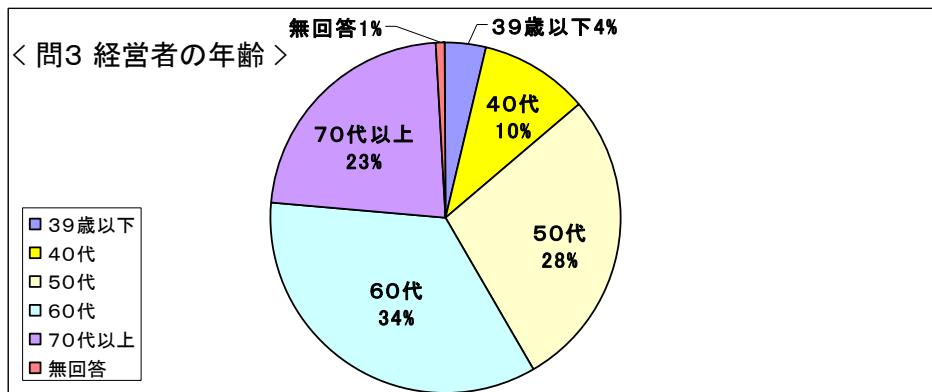
### 問2 従業者規模別商店数

従業者規模別商店数を見ると、家族のみ96、1、2人46、3、4人41、5～9人25、10～19人23、20人以上22であった。



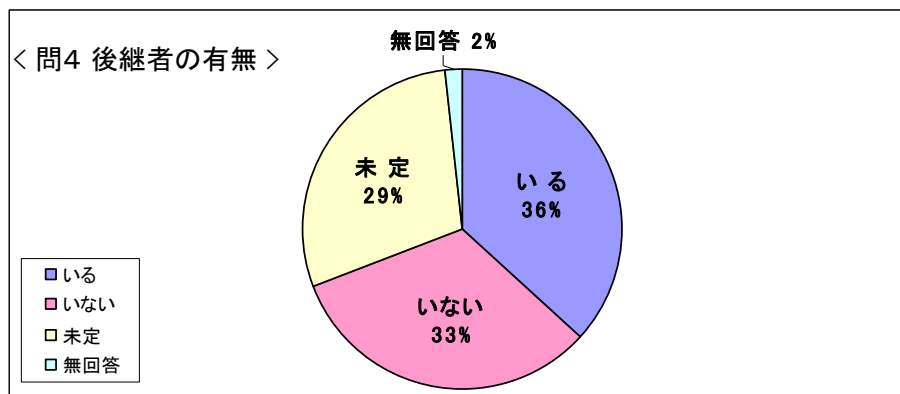
### 問3 経営者の年齢

経営者の年齢を見ると、上位は、60代 34%、50代 28%、70代以上 23%で、39歳以下 4%、40代 10%であった。



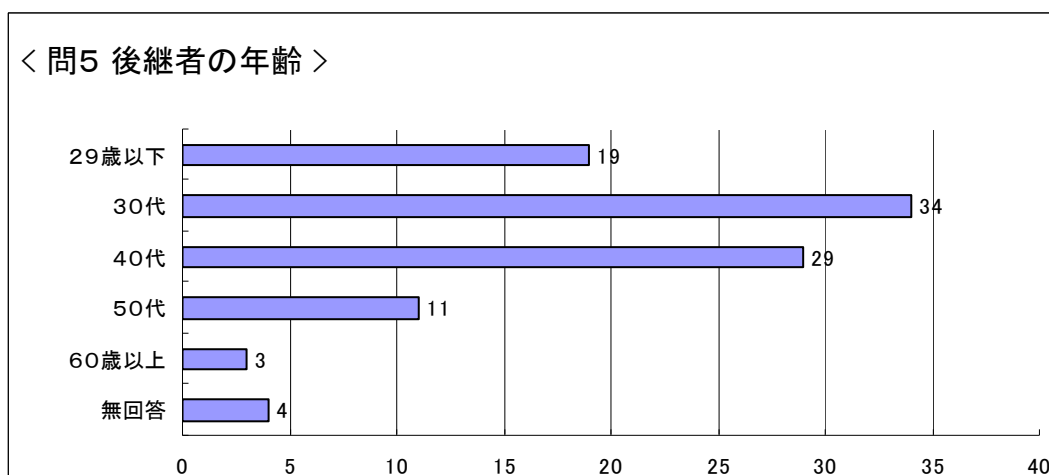
### 問4 後継者について

後継者について見ると、後継者がいる 36%、後継者がいない 33%、未定 29%であった。



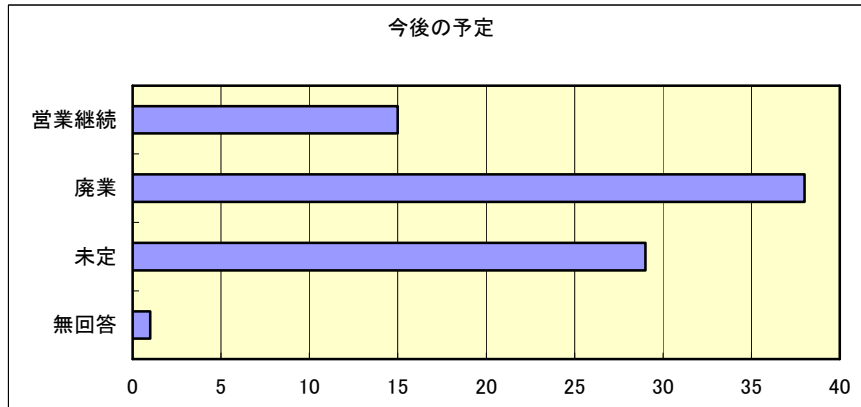
### 問5 後継者がいる場合の年齢

問4で後継者がいる場合のその後継者の年齢について見ると、上位から30代 34%、40代 29%、29歳以下 19%、50代 11%、60歳以上 3%であった。



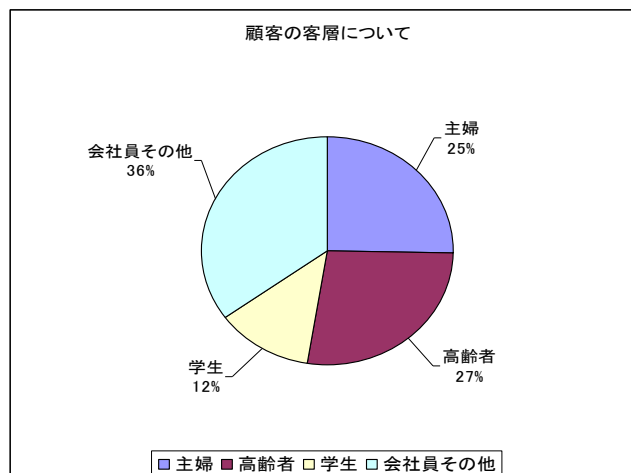
問6 後継者がいない場合の今後の予定

問4で後継者がいない場合を見ると、廃業する38、未定29、営業継続したい15であった。



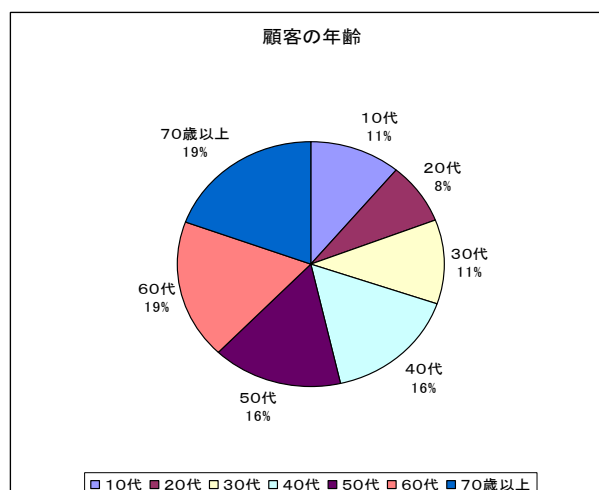
問7 顧客の客層について

顧客の客層については、会社員・自営業・その他36%、高齢者27%主婦25%、学生12%で、高齢者と主婦を合計すると52%であった。



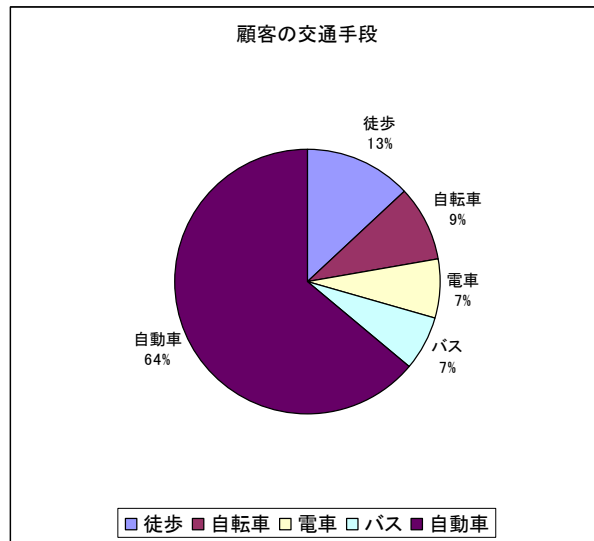
問8 顧客の年齢について

顧客の年齢については、60代19%、70歳以上19%、50代16%、40代16%が上位で、次いで、30代11%、10代11%、20代8%となった。



問9 顧客の交通手段について

顧客の交通手段は、上位から自動車 64%、徒歩 13%、自転車 9%、バス 7%、電車 7%の順であった。



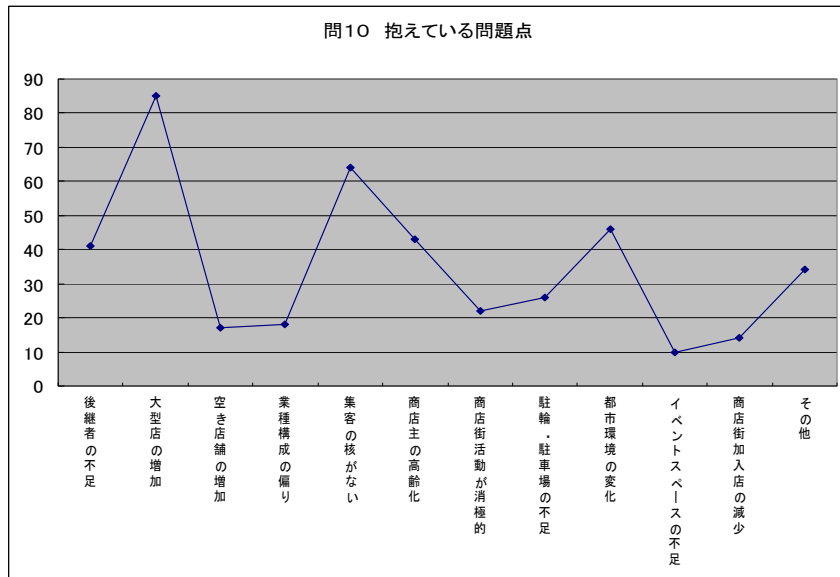
○問7～9まとめ

- ・客層は高齢者・主婦が中心。
- ・年代では50代～70歳以上で過半数。
- ・交通手段のほとんどが自動車であり、駐車場の有無は大きな要因となりうる。

問10 商店としての問題点について（3つまで選択）

上位に挙げられたのは、大型店増加、核がない、都市環境変化であった。問題点（3つまで選択）としてあげられているのは、大型店の増加が最も多く85ポイント、次いで、集客の核がない64ポイント、都市環境変化46ポイントであった。

業種ごとでは若干様相が異なり、業種別の上位項目は、小売業では、大型店の増加が69ポイント、飲食業では、その他（客の減少など）が7ポイント、サービス業では、都市環境変化が6ポイント、卸売業では、後継者不足及び大型店増加が6ポイント、その他小売業では、その他（不景気など）4ポイントであった。大型店を脅威としているのは小売業に集中している結果となった。



問11 現在の景況について

現在の景況については、やや衰退しているが34%と上位で、衰退している26%と合わせると60%となった。以下、変わらない22%、やや繁盛している12%、繁盛している4%となった。

業種別でみると、小売業、飲食業、サービス業、卸売業のいずれでも、やや衰退している、衰退しているが合わせておよそ60%であったが、繁盛している、やや繁盛している項目をみると、卸売業 飲食業で繁盛とやや繁盛を合わせて20%、サービス業で繁盛とやや繁盛を合わせて18%と、全体の平均を上回る業種も見られた。

小売業（詳細）をみると、コンビニ・ディスカウントストアで繁盛13%、やや繁盛25%、自動車・自転車で繁盛16%、やや繁盛21%、家具・什器で、やや繁盛18%で、全体平均をやや上回った。逆に、織物、衣服でやや衰退41%、衰退27%、飲食料品でやや衰退33%、衰退28%、その他（ガソリンスタンド、医薬品小売など）の業種で衰退33%となり、全体平均よりわずかに悪かった。

